

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和5年9月1日発行

文責 校長 中尾 聡彦

2学期は「実りの学期」に

長い夏休みというよりは、暑い夏休みが終わり、8月25日(金)から2学期が始まりました。

今年の夏は、本当に暑い日が続きました。外で遊ぶにも、部活動を行うにも熱中症に気をつけながらの夏だったと思います。

育友会の理解と協力を得ながらプール開放を計画していましたが、暑さ指数やプール使用の基準を基に判断したところ、結局1日だけしか開放することができませんでした。子どもたちのためにという育友会の皆さんの思いに支えられた活動だっただけに残念でした。

このように暑さに左右された夏休みでしたが、9月も熱中症対策を講じながら様々な教育活動を行っていくことになりそうです。

2学期は、1年で一番長い学期です。子どもたちが楽しみにしている修学旅行や文化発表会も予定されています。いろいろな意味で「実りの学期」にしてほしいと考えています。

そのために、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思っています。また、目標に向かって努力してほしいと思っています。

「努力すること」「チャレンジすること」を否定してしまうと、子どもたちの人生はどうなっていくのでしょうか？

逆に「努力すること」「チャレンジすること」を楽しむことができれば、子どもたちの人生はどうなっていくのでしょうか？

始業式では、次の2つの言葉を紹介しました。

「自分にはできない！」「もう無理！」という言葉をお口にしたいときに、「『できない』って、一度でもやってみたのですか？『無理だ』って、挑戦してみたのですか？」と自分に問いかけてみましょう。

また、努力する中で思うようにならないこともあります。くじけそうになる時もあります。そんなときに「きみはこれからも何度も壁にぶつかるでしょう でもそのたびにその壁を乗り越える力も持っているんですよ」と語りかけてみましょう。

特に、9年生にとっては、ある意味、自分の人生にとって大切な時間になります。

悔いの残らない時間を過ごしてほしいと思います。

「平和」への思い

8月3日(木)の全校登校日に合わせて「平和集会」が行われました。

熱中症対策のためにリモートで行いました。

まず、全校で黙とうを捧げ、その後、6年生と9年生が平和学習発表と平和宣言を行いました。そして、全校が中庭に向かって整列し、「おりづる」を合唱し平和への思いを確認したところです。

お盆に戦争を体験された方と話す中で、「戦時中の体験を語る者が少なくなった。若い人たちに平和の尊さを知ってほしい。実際に戦争を体験した自分たちの思いを引き継いでもらいたい。」と言われていました。

子どもたちの姿を見ながら、「平和」は、今を生きる私たち一人一人がこれからもずっと考え続けていくべきテーマだと思いました。



「南波多こども教室」がスタートします

9月7日(木)から、「南波多こども教室」がスタートします。

この取り組みは、コミュニティ・スクールの活動の一つで、前期課程の「クラブ活動」を地域と連携して行うものです。具体的には、地域の方を指導者として招き、「昔遊び」や「おかし作り・園芸」「手話」「書道」に取り組みます。指導者が地域の方であることも特色ですが、コミュニティセンターの事業などとも連携しているところが先進的にコミュニティ・スクールに取り組んできた本校ならではの特色だと思います。これも、長年、地域学校協働活動推進員(コミュニティ・スクールのお世話役)を務めていただいています井手みどりさんや、福寿会をはじめとする諸団体や地域の方々のお力添えがあってはじめて実施できることです。衷心より感謝申し上げます。

9月から11月までの間に6回の「南波多こども教室」が計画されています。

どうぞよろしくお願いいたします。

キリトリ

【通信欄】 ご感想・ご意見をお寄せください。 (年保護者 氏名)



このQRコードを読み込まれると、南波多郷学館のホームページをご覧になられます。